令和５年度授業改善プラン

１．全体計画

中野区立中野本郷小学校

学校教育目標
自然を愛する心と人間尊重の精神を基に、未来を切り拓く力を育み、心身ともに健やかな児童の育成を図る 〇げんきな子　〇かんがえる子　◎たすけあう子

令和５年度学校経営方針（学力向上に関わる要点）
知・徳・体のバランスのとれた児童の育成 本年度の重点目標　思考力・判断力・表現力の育成

指導の重点（各教科）	指導の重点（総合的な学習の時間）
〇各教科の学習指導を通して身に付けた知識・技能を活用して、自ら調べ、考え、表現する児童の育成を目指す。 〇問題解決型学習の質的向上を図る。 〇体験型・問題解決型の学習を効果的に導入するとともに、対話的な学習を積極的に取り入れ言語活動を充実させる。 〇一人１台端末を活用し、一人ひとりの学習状況に合わせた指導の個別化と学習の個性化による「個別最適な学び」と、探究的な学習や体験活動を通した「協働的な学び」のそれぞれの充実を目指した授業改善を図る。 〇「体力向上プログラム」に基づいた健康教育の充実を図る。 〇 学校図書館指導員の効果的な活用による児童の主体的・意欲的な学習活動、調べ学習、読書活動を充実を図る。 〇英語に興味・関心をもち、慣れ親しむことができるための効果的なＡＬＴの活用を図る。	〇ＳＤＧｓに関わる教科横断的な学習を行う。 〇地域と関わる体験的・探究的な学習を行う。 〇自然教材園（グリーンガーデン）を活用した体験的・探究的な学習を行う。

授業改善に向けた具体的方策		
基礎的・基本的な学習内容の定着	**発展的な学習**	**指導と評価の一体化**
〇算数科の習熟度別少人数指導における指導補助（主に「基礎基本グループ」） 〇任短教員における放課後補充学習指導教室の指導と授業の復習プリント等の教材作成 〇朝学習の設定（国語・算数・読書）	**〇児童の課題意識に応じた探究的な学びの設定** **〇学習内容を選択し、自ら学びを進める学習の推進**	〇全校統一したノート指導 〇専科と担任の連携強化 〇各教科の評価規準を評価計画に位置付けた、意図的・計画的な指導と評価の一体化を図る。
「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的充実	**ユニバーサルデザイン、合理的配慮**	**家庭・地域との連携**

○一人１台端末を始めとしたＩＣＴ機器の効果的な活用を工夫 ○対話的な学習を推進	○担任と特別支援教室巡回指導教員との情報共有と強調した指導 ○都の巡回相談を活用 ○全校統一した教室環境の整備	○家庭学習旬間を設定 ○PTA サークルによる本の読み聞かせ ○地域の人材や施設の積極的活用

２　各教科における授業改善プラン

（１）国語科

【小学校】

国語科における指導の重点
・身に付けた知識・技能を活用して、自ら調べ、考え、表現する児童の育成をする。 ・問題解決型の学習、対話的な学習を取り入れ言語活動を充実させることを通して、児童の思考力・判断力・表現力等を育成する。 ・児童の主体的・意欲的な学習活動、調べ学習、読書活動を充実させる。

現状分析
区学力調査の結果分析
・学年が進むにつれて達成率が低下し、高学年は達成率が６割を下回っている。 ・基礎的・基本的な内容の達成率に対して、活用する問題の達成率が低く、正答率が目標値を下回る傾向にある。 ・「書くこと」の領域と主体的な学習に取り組む態度の観点において目標値を下回り、特に記述する力に課題が見られる。
教科指導上の課題
・基礎的・基本的な内容を定着させ、思考力・判断力・表現力等を働かせて知識・技能を活用させる問題解決型の学習指導を展開する必要がある。 ・日常的に書く力を高める指導を継続し、培った力を生かして言語活動に取り組ませる場面を多く設ける。

授業改善プラン		
	「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実の視点	その他 (基礎的・基本的な内容の定着を図る視点等)
１・２年生	・児童と一緒に学習の計画を立てる。また、学習の振り返りを大切にし、次の学習に生かせるようにすることで、児童一人ひとりが自分のめあてをもって授業に取り組むことができるようにする。 ・iPad の学習アプリを使い、思考ツールやノート等一人ひとりが自分に合ったまとめ方、思考方法を選べるようにしておくことで自分のめあてをもって学習を進めることができるようにする。 （１年生）・２～３人のグループでの学習活動を通して、自分の意見を伝えたり、友達の考えを読み取ったり、質問したりする力を伸ばす。 （２年生）・３～４人のグループで、自分の考えを友達に伝えたり友達の考えを聞いたりする活動を取り入れる。付箋やｉＰａｄを活用し、話し合ったことの見える化を図ることで、児童が考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	（１年生）読み・書きの定着を図るため、ワークシート、ノート、タブレットを使い、個に応じた指導、繰り返し指導を行うことでスタディログを活用しながら基礎・基本の確実な定着を図る。 （２年生）自分の思いや考えを文章で表現する力を向上させるために、教科書の「ことばのたからばこ」を活用して語彙力や文章表現力を高めさせる。「ことばのたからばこ」を活用する際には、自分が表現したいことにぴったり合う言葉を探すよう伝えるなど、個々の思いが表現できるように指導する。 ・思考に重点を置く学習内容では、ワークシートを利用する一方で、計画的にノート指導を充実させ、見て書く、考えて書くことの指導を進める。

３・４年生	（3 年生）・児童にとって魅力的なゴールを設定し、児童と共に学習計画を立てる。各学習過程において、児童が判断・選択する場面を的確に設定し、児童が自律的に学べるようにする。 ・自分の考えを２人で、またはグループで話す活動を多く取り入れる。その際ｉＰａｄを活用して考えたことを全体に提示できるようにする。 （４年生）・児童と一緒に学習計画を立てる。また、学習過程において、小グループでの対話を取り入れ、考えを深めさせる活動を展開する。	（3 年生）・学習アプリを家庭学習に取り入れ、漢字の習熟を図る。 ・授業、家庭学習共に、書く活動を適宜入れ、児童が友達のよい作品に触れることで、考える力、書く力を伸ばせるようにする。 （４年生）・日頃の漢字テストでは、出題範囲をはっきりさせ、テストに向けての勉強を宿題に出し、確実に習得できるようにする。 ・朝学習や授業時間、日記などを使って、作文を書く習慣付けやねらいを絞った作文指導を繰り返し行う。また、文章を書く際には、児童にモデル文を提示する。
５・６年生	（５年）・一人ひとりの児童が主体的に話題について考えをもてるような課題設定と、小グループでの対話を取り入れた問題解決、一人１台端末を用いた振り返りの記述をさせる。 （6 年）・対話的な学びで考えを深化させる場を設定することで、表現力を高める。	（５年）Google forms を用いた短作文の記述・交流などを指導し、継続的に取り組ませる。 （6 年）定期的に学習アプリを活用することで、漢字の読み書きの習熟を図る。

（２）社会科

【小学校】

社会科における指導の重点
・学び合いの中で主体的・対話的で深い学びを充実させ、児童一人ひとりの学習がより深められるようにする。 ・身に付けた知識を活用して、社会的事象について自ら調べ、考え、表現する児童の育成を目指す。 ・体験型・問題解決型の学習を効果的に導入することで、主体的に学びを進める児童の育成を目指す。

現状分析
教科指導上の課題
・「見方・考え方」を働かせる授業展開をするために、問いや学習活動の工夫と資料の精選をする必要がある。 ・思考・判断したことを表現する仕方を指導する必要がある。 ・児童の主体的な学びを保障するために、自らが見つけた課題を追究するための授業展開をする必要がある。

⇩

授業改善プラン		
	「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実の視点	その他 (基礎的・基本的な内容の定着を図る視点等)
３・４年生	（3 年生）児童が主体的に問いを追究できるように、見学や体験活動を取り入れたり、ＩＣＴを活用したりする。学習形態は個別学習とグループ学習の両方を適宜取り入れて進めるようにする。 （４年生）児童一人ひとりが問いを追究できるようにするために、資料の読み取り方をあらかじめ全体で確認した上で個人学習の時間を設定する。また、自分の考えを記述する際の文型を提示し、主体的にノートに表現できるようにする。	（3 年生）授業内容や教材を関連付けて見学や体験を行うことで学習効果を図れるようにする。資料を見る際には、注目する点をはっきりさせる。 （４年生）・単元の最後に、学習したことと日常生活との関連について関係図などにまとめ、自分にできることを発表する時間を設ける。 ・都道府県名については、テストだけでなく、カルタなどを使って定着させる。また、知識を定着させるために、家庭学習に社会科プリントも加える。
５・６年生	（５年生）児童一人ひとりが問いに対する考えをもてるように、資料の読み取りと話し合いの時間を十分にとる。また、１時間の授業の中で読み取る資料の精選をし、一人一台端末で配付することで、学習の効率化を図る。 （６年生）問いを追究するための資料の活用や学習形態を児童にゆだねた学習の個性化を図る。 （６年生）「いかす」の段階では、社会的事象と私たちとの関わりについて児童がファシリテーターとなって互いに話合い、検討し合う場を設定する。	（５年生）・１時間毎の学習の振り返りでキーワードを明確に押さえることで、知識の定着を図る。 ・社会的事象と児童の生活を結び付けることで、社会との関わりを身近に感じて問いに対する考えをもてるようにする （６年生）追究してきたことを確かな理解とするために、「まとめ」の段階で関係図作りを継続して行い、学習問題に対する考えを表現する活動を設定する。

（３）算数科

【小学校】

算数科における指導の重点
・教科の学習を通して身に付けた知識・技能を活用して、自ら調べ、考え、表現する児童の育成を目指す。 ・学び合いの中で主体的・対話的で深い学びを充実させ、児童一人ひとりの学習がより深められるようにしていく。 ・問題解決型の学習を効果的に導入することで、主体的に学びを進める児童の育成を目指す。

現状分析
区学力調査の結果分析
・学年が進むにつれて達成率が低下し、高学年は７０ポイントを下回っている。 ・２～５年生は、基礎的・基本的な内容の達成率に対して、活用する問題の達成率が低い傾向にある。 ・思考・判断・表現の観点において目標値を下回り、特に６年生では記述する力に課題が見られる。
教科指導上の課題
・既習事項を生かして、児童に考えさせる場の設定が必要である。 ・復習を通して、理解を定着させる時間の設定が必要である。

⇩

授業改善プラン		
	「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実の視点	その他 (基礎的・基本的な内容の定着を図る視点等)
１・２年生	・全体指導では、問題解決学習で導入を協働的な学びで進め、話合いを通して単元の見通しをもてるよう工夫する。単位時間毎のめあてを達成できるようにするために確認問題を実施したり、学習アプリを使って個別に課題を提示したりして基礎･基本の確実な定着を図る。	・学年で全員の児童の学習を見ていき、児童の実態を確認しながら必要に応じて個別課題を出したり、iPad の AI ドリルの活用を進めたりして、基礎・基本の確実な定着を図る。
３・４年生	・全体指導では、文章問題を基に解決方法の検討や問題を協働的に解決する活動を取り入れ、自力解決の取りかかりに役立たせる。 ・小グループでの対話や教え合いを取り入れ、様々な考えに触れることができる交流の場を設ける。	・基礎的な知識・技能の定着を目指し、家庭と連携を強化し、個別に対応する。朝学習や授業時間などの時間に iPad の学習ドリルを活用し、計算練習を行い、確実な定着を目指す。
５・６年生	・児童の学習意欲を喚起する問題を設定し、自力解決の時間を確保する。 ・小グループでの対話や教え合いを取り入れ、様々な考えに触れることができる交流の場を設ける。	･朝学習や授業時間に iPad の学習ドリルを活用し、前年度以前の学習内容を振り返り、基礎的基本的な学習内容の定着を図る。 単元の終末には、活用問題・適用問題の設定をし､既習事項を活用する力の育成に結び付ける。

（４）理科

【小学校】

理科における指導の重点
・「理科の見方・考え方」を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどの問題解決の活動を通して、理科で育成を目指す資質・能力を育むための単元及び１単位時間の授業を構想すること。 ・「観察・実験の代替」としてではなく、理科の学習の一層の充実を図るための有用な道具としてＩＣＴを位置付け、一人１台端末を活用する場面を適切に選択し、効果的に活用すること。

現状分析
教科指導上の課題
・根拠のある予想を立てさせるために生活経験を補うような活動を取り入れ、そういった経験と関係づけて、しっかり思考した予想を立てられるように指導する必要がある。 ・予想や考察の交流、グループで意見をまとめるなど協働的な学びができるように指導する必要がある。

↓

授業改善プラン		
	「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実の視点	その他 (基礎的・基本的な内容の定着を図る視点等)
３・４年生	児童一人ひとりの生活経験と関係付けながら予想を立てられるようにする。ＩＣＴの撮影機能やデジタル教材等を活用して、実験や観察を写真や動画で記録して、グループで比較、検証し理解を深められるようにする。	ノートのまとめ方や書き方、実験結果から考えをまとめる学習の進め方等を具体的に支援し、学習の基本を定着させる。
５・６年生	個別最適な学びの充実のために、予想を立てたり考察したりする場面では一人で考える時間を十分にとり、思考の深まりを大切にする。また、問題解決の過程において、意見交換したり、観察、実験の役割分担をしたりするなど、協働して行う活動の中で他者との関わりをスムーズに行えるようにするために、普段の学校生活の中で言語活動を意識した取り組みをより多く取り入れていく。	既習事項の定着のために、復習問題を解いたり、デジタル教材（動画）などを用いて実験の結果を振り返ったりする時間を十分に確保する。系統的な学習を意識し、該当単元に繋がる既習事項の確かめや振り返りを取り入れながら、新たな学習を進めていく。実験の結果を一人ひとりが画像として保存したりクラスで共有したりするなどし、考察に活用していく。

（５）生活科

【小学校】

生活科における指導の重点
・具体的な活動や体験を通して、自然や生き物、身近な人々、季節の変化などについて多くのことに気付かせる。 ・自然や生き物、身近な人々との触れ合いの中での気付きを、自分の生活を豊かにするために生かしていこうとする力を身に付けさせる。

現状分析
教科指導上の課題
・自然や生き物、身近な人々に実際に触れ合う経験が少ないと思われるため、教材園を活用して動植物と触れ合ったり、他学年との関わりの機会を増やしたりする具体的な活動や体験を取り入れた指導をする必要がある。

⇩

授業改善プラン		
	「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実の視点	その他 (基礎的・基本的な内容の定着を図る視点等)
１・２年生	・児童一人ひとりが、自らの思いや願いを実現させたいという思いをもって学習に取り組むことができるよう、様々な活動を設定したり、児童が友達と協力しながら課題解決に向かうことができるような学習環境を整えたりする。 ・iPad のカメラや学習アプリを使うことで、学習のめあてである動植物の様子や、生長の過程に気付きを記録すること、学習履歴を生かして変化に気付くことに重点を置いた指導を行う。 ・学習アプリの協働学習機能を使い、グループでの気付きや改善点、感想などを共有することで、学び合いの機会を充実させる。	・教材園や商店街などを生かし、児童に地域の特徴やよさに気付かせる。さらに、身近な人々や社会との関わりの中で、自分自身の生活について考えたり表現したりすることができるよう、単元の構成を工夫する。また、振り返りでは、ｉＰａｄを活用することで、児童が自分の学びの過程を捉えられるようにする。

（６）音楽科

【小学校】

音楽科における指導の重点
・身に付けた知識や技能を活用して、表したい音楽表現をできる児童の育成を目指す。 ・体験活動を通して、音楽を愛好する心情や音楽に対する感性を育み、音楽に親しむ態度を養う。 ・ＩＣＴ機器を活用して、考えを深めたり、広げたりすることができるようにする。

現状分析
教科指導上の課題
(１・２年)鍵盤ハーモニカの指遣いや打楽器の奏法などが身に付いていない児童がいる。映像や掲示物で視覚的に提示して楽器に触れる時間を確保する必要がある。 (3・4年)感じ取ったことや気付いたことを言語化して発表することに苦手意識をもつ児童がおり、一部の児童の意見で授業が進んでしまうことがあった。曲想を表す言葉を提示しておいたり、他の児童の意見を見られるようにしたりするなど、学習過程の工夫が必要である。 (5・６年)歌うことに苦手意識がある児童がいる。表現することに楽しさや充実感を味わうことができるよう声掛けの方法を工夫したり、発表の機会を設けたりする必要がある。

↓

授業改善プラン		
	「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実の視点	その他 (基礎的・基本的な内容の定着を図る視点等)
１・２年生	・鍵盤ハーモニカの指遣いや打楽器の奏法を一人１台端末(Ｇｏｏｇｌｅ Ｃｌａｓｓｒｏｏｍやデジタル教科書)で見て練習することができるようにする。 ・技能が身に付いている児童が他の児童に教えることで学び合いの時間をつくる。 ・グループごとの発表の機会を取り入れ、互いに褒め合ったり、認め合ったりする。	・授業の導入５分間には、常時活動を取り入れ、基礎的・基本的な力を積み重ねていく。 ・電子黒板やホワイトボードに映像や写真を提示して視覚的な支援を行う。 ・授業の始めにめあてを確認し、授業の終わりには振り返りを行う。
３・４年生	・挙手をして意見を聴くだけでなく、Google forms やコラボノートを使って全員の意見が見られる時間を多く確保する。 ・曲想を表す言葉や曲の特徴を表す言葉を提示することで、感じたことや気付いたことを言語化できるようにする。 ・自分の進度に合わせて学習に取り組むことができるよう検定等を行う。	・授業の導入10分間でリコーダーの学習を取り入れ、基礎的な力を身に付ける。 ・曲を聴きながら、手拍子したり、体を動かしたりすることで体験的にその曲の特徴やよさに気付くことができるようにする。 ・児童が身近に感じることができる導入の話題から、学習内容につなげていくようにする。
５・６年生	・合唱や合奏では、全てのパートや楽器に触れる機会を設け、自分の得意なものを見つけられるようにする。 ・合唱ではパートごとにリーダーを決めて取り組むなど、児童だけで表現を考える時間を確保する。	・今月の歌など、同じ曲に取り組むことで児童が達成間や充実感を味わうことができるようにする。 ・クラスごとに発表し合ったり、他の学年に発表したりする機会を設け、成功体験を積み重ねられるようにする。

	・発表したものを録音や録画し、ICT 機器で全員で聴いて鑑賞したり、改善点を出し合ったりする。	

（７）図画工作科

【小学校】

図画工作科における指導の重点
・授業の流れや工程表を掲示し、児童が見通しをもって主体的に取り組めるようにする。 ・児童が自分の思いを表現しようとしたときに、いろいろ試したり、思い通りに行かない中で新たな表現方法を見付け出したりすることができる「試行錯誤」する時間を意図的に設定し、表現力の向上を図る。

現状分析
教科指導上の課題
(１・２年)はさみやのり、筆の使い方など、基本的な道具の扱いを十分に習得させることができていない。写真やイラスト、動画などで視覚的に提示したり、道具に慣れる時間を十分に確保したりする必要がある。 (３・４年)身近な材料の触り心地の面白さや違いを楽しみながら活動したり、自分で材料を集めたりする機会が少なかった。児童が様々な素材の感触に関心をもったり、自ら進んで材料を集めようとしたりできるよう、図工室の環境づくりや材料との出合わせ方を工夫する必要がある。 (５・６年)作品をお互いに見合い、表現の広がりをもたせる活動が少なかった。授業中、実際に掲示したり、iPad の学習アプリや視聴覚器具を活用したりして、友だちの頑張りや、参考になる表現方法など発表する時間を設ける必要がある。

↓

授業改善プラン		
	「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実の視点	その他 (基礎的・基本的な内容の定着を図る視点等)
１・２年生	・用具の使い方や留意点をデジタル教科書や書画カメラ機能を用いて、視覚的に提示する。 ・油粘土等、作品の写真を撮り、iPad の学習アプリを使って作品に対する思いや工夫した点などを記録し、学習履歴を残すことで鑑賞の時間を確保でき、お互いの良さを認め合うことができる。	・繰り返し取り組ませるとともに、つまづきのある児童には実際に目の前でやってみせるなどの個別指導をする。 ・学習履歴やアニメーションアプリを使い、動きや変化を予想しながら楽しみながら動きを作り、作品を鑑賞する活動を確保することで、お互いの作品の良さを認め合い、味わう経験を積ませる。
３・４年生	・題材に合わせて「材料コーナー」を充実させ、自分の表したいことに合った材料を進んで選ぶことができるようにする。	・Google クラスルームなどの機能を使い、写真等を用いながら児童や家庭に材料集めのお知らせをする。
５・６年生	・iPad を活用したり、実際の作品を見せ合ったりしながら作品鑑賞の時間を十分に設定し、自分や友達の作品のよさに気付かせるようにする。	・自分の作品にじっくりと向き合い、いろいろ試したり、思い通りに行かない中でも新たな表現方法を見付け出したりすることができるようにする。

（８）家庭科

【小学校】

家庭科における指導の重点
・家庭科としての基礎的・基本的な知識や技能の定着と、生活をよりよくしようと工夫する資質・能力の育成を目指す。 ・課題を明確にし、実践的な学習を通して基礎的な理解と技能を養う。また、授業や家庭において自分で計画、実行、振り返りをしていく学習の流れを通して、生活の中で主体的に考え、判断し、行動できるようにしていく。

現状分析
教科指導上の課題
・生活経験や家庭の支援の差が大きいため、児童の実態に合わせた学習計画を立てる必要がある。 ・調理や裁縫等の実践をする機会が少なく、用語や基本技能が身に付いていない児童が多いため、知識や技能を身につける時間を十分に確保する必要がある。

授業改善プラン		
	「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実の視点	その他 (基礎的・基本的な内容の定着を図る視点等)
５・６年生	・ＩＣＴ機器で動画資料等の実技の習得の支援となる資料を提供し、自主学習や児童同士で意見交流、教え合いができる授業づくりをする。 ・児童の実態に合わせた課題を選択し、スモールステップでの指導を行い、技能の習得に遅れのある児童の支援により多く時間を割くようにする。	・裁縫や調理などの実技学習において、書画カメラを用いて実際の作業を見せながら具体的に指導することで、効率的に技能の習得を図る。 ・振り返りの場面で学習したことと日常生活との関わりを捉え、生かし方を考えさせることで、生活をよりよくしようとする態度の育成を図る。

（９）体育科

【小学校】

体育科における指導の重点
・各領域の特性に応じた運動の行い方や健康・安全について理解をするとともに、基本的な動きや技能を身に付けられるようにする。 ・ＩＣＴ機器で動きを写真や動画で記録し、自己やグループの課題を見付け、その課題解決の仕方を考えたり、伝え合ったりすることができるようにする。 ・体力向上月間（なわとび月間、持久走月間など）の取組を通して、日常的に運動する習慣を付けたり、健康な生活を実践する態度を育てる。

現状分析
教科指導上の課題
・児童の発達段階に応じた系統的な指導をする必要がある。 ・ＩＣＴ機器等を活用し、児童が運動の特性や魅力に応じた動きや実現状況を把握する授業展開をする必要がある。 ・運動や話合いの視点を明確にして活動の効率化を図り、十分な運動時間と運動量を確保する必要がある。

↓

授業改善プラン		
	「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実の視点	その他 (基礎的・基本的な内容の定着を図る視点等)
１・２年生	・iPad のカメラ機能を活用し、自分の動きやチームの動きを見直すことで作戦を考えたり、技能を高めたりする場を設定する。 ・動画を見ながら、また、振り返りの場でみんなが楽しめる工夫や、ルールの改善などを話合い、協働的に考えることができる場の設定をする。	・短なわ、長なわ、持久走など学校全体で取り組む活動についてクラスで話し合い、めあてを設定して取り組む。その際も iPad のカメラ機能を使い、お互いの良さ、改善点などを話合う場を設定する。
３・４年生	・(3 年) ＩＣＴを活用し、児童同士が課題（できないこと・わからないこと）を伝え合い、解決（わかること・できること）するために必要な話合いをする時間を設定する。	・(3 年) スモールステップで学習ができるようにする。手本となる映像資料や自分の動きを学習用タブレットのカメラ機能で撮影するなどして、児童が自己の課題に合った練習方法を選択する場を設定する。
５・６年生	（５年）学習課題や視点を明確に示し、個々の課題が適切に解決されるように、教え合いの時間の設定と学習カードや Google forms を用いた振り返りを１単位時間の中に取り入れる。 (6 年) タブレットのカメラ機能を活用し、自分の動きを見直すことで、技能を高める場を設定する。 (6 年) アドバイスのし合いや戦術の話し合いなどの場を設け、協働的に考えることで技能の伸長を図る。	(5 年) 運動の日常化を図るために、体育の運動に結び付く遊びを取り入れて休み時間に学級・学年遊びの機会を設定する。 （５・6 年) 縄跳びや持久走など学校全体で取り組む運動についてクラスでも十分に取り組む。

（１０）外国語活動・外国語科

【小学校】

外国語活動・外国語科における指導の重点
・外国語の歌やゲームを楽しむ活動、身近で基本的な語句の表現を使いながら会話に挑戦する活動などで外国語に慣れ親しむことを通して、外国の言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。 ・ALT を効果的に活用し、教員との役割分担や教材開発を計画的に行い、授業を通して、児童が英語に興味・関心をもち、慣れ親しむことができるようにする。

現状分析
教科指導上の課題
・英語を話すことへの苦手意識や抵抗をなくし、児童自らが進んでコミュニケーションをとることができるしかけ作りを授業で行う必要がある。 ・児童が自分の気持ちや考えをアウトプットしたいと思える言語活動・既出表現の定着を図る活動を設定して指導する必要がある。

授業改善プラン		
	「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実の視点	その他 (基礎的・基本的な内容の定着を図る視点等)
外国語活動	（3 年）歌やゲーム、ジェスチャーなど、ペアワークで体を動かしながら外国語を話すことを楽しむ活動を取り入れる。 （４年）歌やゲーム、ジェスチャーなど体を動かしながら外国語を楽しむ活動を取り入れる。	（3 年）苦手意識のある児童も活動できるよう、教師が分かりやすくモデルを示す。ＡＬＴの後について話したり、友達同士でコミュニケーションをとったりなど、児童がアウトプットできる活動を増やす。 （４年）ＡＬＴの後について話したり、友達同士でコミュニケーションをとったりするなど、児童一人ひとりが声に出して発音したり、話したりする時間を十分に確保する。
外国語科	・ALT と連携することで児童の個別理解を図り、個々の学習の目標を設定する。 ・端末を用いてグループで国の文化や観光地を調べたり、プレゼンテーションを外国語で行ったりして、国際理解を深める。	・児童が発言した際に間違いをただすのではなく、教師が児童の発言の意図を汲み取って返答することで会話が成立したことを積極的に示し、間違いを気にせず発言できる環境をつくる。 ・日常的に外国語に目が触れる環境、リスニングができる環境を ALT と担任とで連携して作り。デジタル教材を活用し外国語への抵抗感をなくすようにする。

（１１）特別の教科　道徳

【小学校】

道徳科における指導の重点
・何について考えさせ、何について気付かせたいのかという明確にした指導観をもつ。 ・「考え、議論する道徳」の実現に向けた指導方法の改善を図る。

現状分析
教科指導上の課題
・登場人物の心情を問うことに終始する授業の流れに陥りがちで、ねらいとする価値に十分に迫れないことがある。 ・挙手して発言する児童に偏りが見られ、議論に深まりや広がりが見られないことも多い。 ・学習したことを自分事として捉え、考えることが難しい児童が多い。

授業改善プラン
具体的な授業改善案
・ＩＣＴを活用して教材を提示することで、児童が教材の世界にスムーズに入れるようにする。また自分の意見や友達と話し合ったことをｉＰａｄを活用して書き込み、自分の考えを示すようにする。 ・考えを深められるよう話し合いを見える化したり、ツールを工夫したり、表現活動の工夫をしたりする。 ・それぞれの教員が道徳授業地区公開講座の指導案について話合ったり、道徳教育推進教師が行う研修に参加したりして、道徳科について学べるようにし、日々の授業に生かせるようにする。